

京町のまち並みと千人針(昭和初期)

写真提供・江見写真館

写真は現在のソシオ一番街東側の入口から宮川大橋に向かって撮影したものと思われまます。当時、今津屋橋から北に延びる通りはここで行き止まっています。写真左(北)側には商店などが立ち並んでいます。



交差点では女性たちが千人針を縫っています。千人針は日中戦争の頃から盛んに行われました。白木綿の腹巻に千人の女性が赤い糸を一針ずつ縫い付け、千個の結び玉を作ります。さらに、寺社のお守りや死線(四銭)を越えるという意味の語呂合わせから、五銭白銅貨を縫い付けるなど、弾丸除けのお守りとして出征する兵士に贈られました。津山高등학교百年史には「日中戦争が始まると津山高女学校の校門でも出征兵士の家族が生徒に千人針を頼む姿が増えてきた」と記されています。

道路は轆わたぢなどのへこみもなく、平らでアスファルト舗装されているように見えます。津山市史によると、京町では昭和9、10年の間に道路が舗装されたということです。当時の新聞には舗装された道路の延長は、541・16メートルとあります。

通りにはのぼりや看板が立ち並び、にぎやかで活気があるように見えます。しかし、道行く人びとに千人針を縫ってもらっている光景には、戦争という時代背景の暗さを感じさせられます。



現在の京町界隈

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

問い合わせ先

〒708-0022津山市山下92
津山郷土博物館 ☎22-4567

表紙について

笑顔と体操が健康の秘訣 沼健康体操

端午の節句が間近なある日「こけないからだ体操」の教室を訪ねました。休憩の際、男性参加者に新聞紙で作った兜かぶとを被ってもらくと、「かっこいい〜」みんな童心に返って笑顔の花が咲きました。

つ・ぶ・や・き

編集室



お腹が空いたな。手っ取り早くカップ麺でも食べるか。でも、体のことを考えてカップ麺に野菜を入れよう。トン、トン、トン。野菜を細かく切って。グツ、グツ。軽く塩ゆでして。お湯を入れたカップ麺の中に投入。…あれ、この手間掛けるなら、普通に料理が作れたかも。(〜)

『隠取かくとり絵師』今月号で著者を取材させていただく前に読んでみようかと購入。読み始めると鍛形かたがた蕙斎という人物と臨場感あふれる物語の世界にどんどん引き込まれ、あっという間に読んでしまいました。こんなに夢中に本を読んだのはハリーポッター以来!?おもしろいですよ。(G)

津山さくらまつりの取材で津山城へ。夕刻、天守閣跡に登るとハートの石垣が夕日を浴びて桜色に輝いていました。このことを周りの人にアピールすると、早速、カップルに写真撮影を頼まれました。幸せそうな笑顔や会話に、こちらの心もほっこり。どうぞ、お幸せに。(修)

